

秋田－仙台高速バス利用者の移動目的

小林 友 美

キーワード：仙台市 高速バス 移動目的 行動地理学

I はじめに

本研究の目的は、県域中心都市－広域中心都市の日常的な移動が、いかなる理由によってなされているのかについて、秋田－仙台都市間高速バスを事例に明らかにすることである¹⁾。成瀬（1993）は、現代日本における様々な場所には、そこで生活を営む以外の人が積極的に関与しているという事実に着目するとしている。

本研究において、研究対象都市を秋田と仙台に選定した理由は、次の2点である。①秋田県－宮城県間の転入・転出人口が多いこと²⁾、②秋田－仙台間に新幹線と高速バスが頻繁に運転されていることである³⁾。

II 高速バス利用者への聞き取り調査の結果

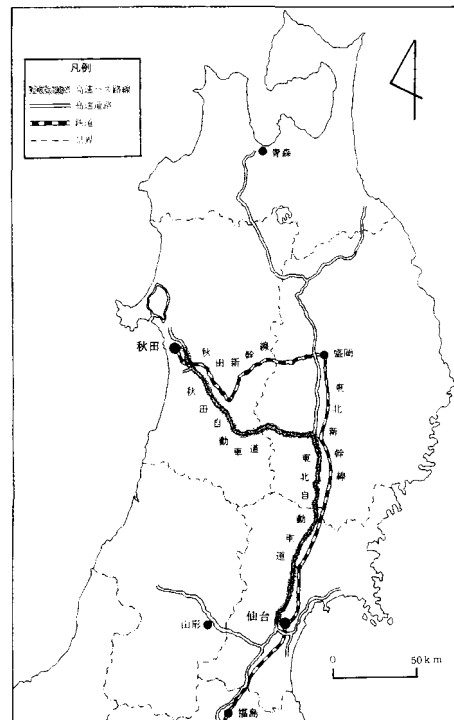
1. 調査の概要

秋田－仙台高速バス「仙秋号（せんしゅうごう）」（以降、仙秋号とする）は、秋田市にある長崎屋バスターミナルを始発として、JR 秋田駅東口に停車すると、秋田中央 IC から秋田自動車道に入る。北上 JCT から仙台宮城 IC まで東北自動車道を経由して、JR 仙台駅前に到着する（第1図）。所要時間は3時間50分である。

聞き取り調査は、2005年4月から8月の土・日・祝日とその前後を中心に計17日間、JR 秋田駅東口バス乗り場において仙秋号を待つ乗客に行い、調査数は180件であった。聞き取り内容は、移動目的をはじめ、年齢、性別、属性、居住地、滞在期間など10項目である。

2. 高速バス利用者の年齢・性別・属性

聞き取り調査で得られた利用者の年齢・性別を集計すると、仙秋号においては180人中、58%の105人が女性である。そのうちの64人は20代の女性であり、



第1図 秋田－仙台高速バス「仙秋号」路線図
（2005年）
（二宮書店発行「高等地図帳」より作成）

20代女性の利用が多いことがわかった（第1-a表）。

次に、属性ごとの集計を行う。高校生、学生、会社員、専業主婦、パート・アルバイトの5つの属性に分類した。属性別の集計において、仙秋号での聞き取り調査では180人中、49%の89人が学生であった。高速バスの利用が最も多いのは、男女共に学生であることがわかった（第1-b表）。

3. 秋田－仙台高速バス利用者の移動目的

高校生と学生の移動目的をみてみると、施設への訪問⁴⁾が主目的であるのに対し、会社員と専業主婦は人間関係による訪問⁵⁾が主目的である（第2表）。

第1表 仙秋号利用者における年齢・性別・属性
(2005年)

| a) 年齢および性別 | | | b) 属性および性別 | | |
|------------|--------|--------|------------|--------|--------|
| 年齢 | 単位:人 | | | 単位:人 | |
| | 男 性 | 女 性 | | 男 性 | 女 性 |
| 10～14 | 1 | | 高校生 | 3 | 7 |
| 15～19 | 23 | 23 | 学生 | 41 | 48 |
| 20～24 | 22 | 50 | 会社員 | 26 | 19 |
| 25～29 | 12 | 14 | 専業主婦 | | 16 |
| 30～34 | 10 | 1 | パート・アルバイト | 4 | 15 |
| 35～39 | 1 | 6 | | | |
| 40～44 | 3 | 2 | | | |
| 45～49 | 3 | 4 | | | |
| 50以上 | 3 | 5 | | | |

(2005年4月～8月の聞き取り調査より作成)

第2表 仙秋号利用者における属性別移動目的
(2005年)

| | 単位:人 | | | | | | | | | |
|-----------|------------|----------|-----------|----------|------------------|------------------|-------------|------------------|------|--------|
| | 施設への訪問 | | 人間関係による訪問 | | | | | | 乗り継ぎ | |
| | ショッ ピング | レジャ ー | 学校 訪問 | 企業 訪問 | 家 族 友 人 | 冠 婚 親 戚 | 同 窓 会 | ビ ジ ネ ス | | 帰 省 |
| 高校生 | 7 | | 4 | | 3 | | | | | |
| 学生 | 15 | | 14 | | 6 | | | 30 | 31 | 3 |
| 会社員 | 7 | | | | 15 | | | 7 | 4 | 12 |
| 専業主婦 | 8 | | | | 7 | | | | | 1 |
| パート・アルバイト | 12 | | 1 | | 8 | | | | | 2 |

注1) 複数回答の場合、該当する目的全てを集計に含める。
 注2) 帰省とは秋田が居住地で仙台の実家に帰る場合、帰宅とは秋田に実家があり仙台の居住地へ帰る場合を指す。

(2005年4月～8月の聞き取り調査より作成)

III 属性別にみる移動目的の個別事例

1. 高校生

事例1は、1泊2日の滞在中、移動目的を学校訪問としている。「美容専門学校の体験入学に行くため。秋田での進学も考えたが、仙台は学校の数も多く、なにより流行に敏感で刺激が多いと思ったから」と発言している(第2-a図)。

事例2は日帰り、ショッピングを移動目的としている。「高校でおしゃれだなと思う子は仙台や東京へ買物に行っている」と発言している。高校生は、仙台に友人がいないことが多く、宿泊場所の確保には費用がかかってしまうため、日帰りでのショッピングという日程が多い。この利用者は、特にJR 仙台駅前のファッションビルの名前をあげ、「仙台まで

行かないと入手できないブランドがある」と強調している。

高校生の移動目的は、進学準備による学校訪問、ショッピングが主目的となっている。「流行に敏感」、「刺激が多い」、「おしゃれ」といったファッションに関するイメージを回答する利用者が多い。

2. 学生

事例3は、友人宅訪問とショッピングを移動目的としている。2泊3日の滞在中、「友人の家に宿泊することは多い。洋服が大好きなのでショッピングは必ずする。また、仙台はレゴショップ[®]があるので嬉しい。高校時代は泊まる場所もなかったで行ったことはない。友人がいると身近になった感じがして安心感がある」と発言している。友人という要素が、仙台への印象を身近にしたようである(第2-b図)。

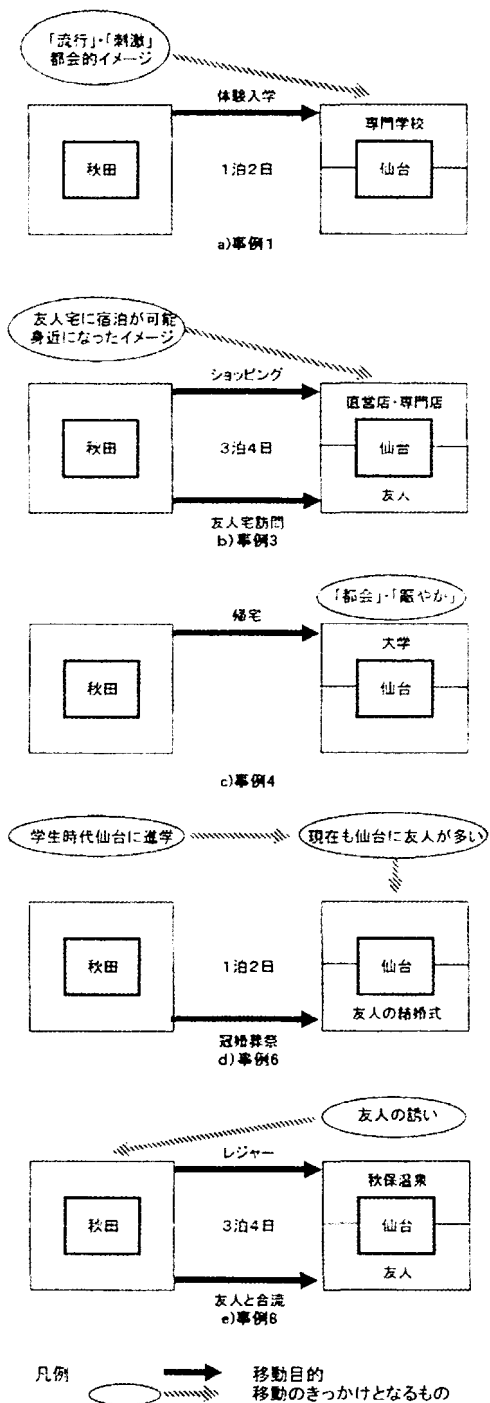
事例4は、帰宅を移動目的としている。「進学は仙台、就職は秋田で、と考えている。進学を仙台にしたのは『都会』という感じの賑やかな街に行きたかったから」と発言している。この利用者にとって仙台に対する「都会」というイメージは娯楽施設の充実を指しており、「学生時代は遊びたい、楽しみたい」とも発言していた(第2-c図)。

学生の移動目的は、仙台の学校に通っているための帰宅、就職活動による企業訪問、商業施設へのショッピングが主目的である。ショッピングについては高校生と同様に関心が高いが、友人が仙台に居住していることで、友人宅訪問と複合した目的となる。

3. 会社員

事例5は、友人宅訪問とレジャーを移動目的にしている。「仙台に住む友人と合流し、友人の案内で仙台をまわる。仙台に友人がいなければ行くことはなかったと思う」と発言している。友人宅訪問はショッピングやレジャー目的と複合的になることが多いが、この利用者にとっては友人が移動を喚起したものであることがわかる。

事例6は、冠婚葬祭を移動目的としている。「友人は仙台に多いので、結婚式も今年だけで2回目」と発言している。この利用者は、大学進学によって秋田から仙台へ転出していった時期があり、現在も彼は仙台に学生時代の友人が多い(第2-d図)。冠婚葬祭を中心に、年に数回は仙秋号を利用している。



第2図 仙秋号利用者における移動目的の個別事例
(2005年)

注) 上段は施設、下段は人間関係による訪問を示す。
(2005年4月～8月の聞き取り調査より作成)

事例7は、帰宅を移動目的としているが、仙台のショッピングについての発言がみられた。「高級ブランドが1つの店舗としてあるのがいい。高級ブランドの中古を扱う店もあるので、バッグや小物を買うのに利用する」としている。たとえば、「グッチ」、「セリーヌ」、「ボッテガヴェネタ」の専門店がJR仙台駅前の商店街に立地している。

4. 専業主婦

事例8は、レジャーを移動目的としている。近隣に住む専業主婦とともに仙秋号を利用し、仙台でもう1人の友人と合流する。「仙台市に住む友人からの誘いがきっかけ。その誘いがなければ、仙台を目的地にはしなかった。美味しい牛タンを食べて、仙台の街を観光する。しかも温泉にも行けるのはとても楽しみ」と発言している(第2-e図)。

事例9は、「夫の身の回りの世話をしに週末は仙台へ。夫が秋田に帰ってくることは滅多にない」と発言している。

事例10は、家族宅訪問を移動目的としている。「仙台に進学した娘に会いに行く。娘と2人で仙台を歩いて買物などをするのも楽しみ。秋田ではそういうことはなかった。娘が進学したのがいい機会になった」と発言している。

専業主婦の移動目的は大きく分けて2つに分類される。1つ目は、夫・子どもへの訪問であり、2つ目は温泉地や観光地への訪問である。

IV おわりに

研究の結果、明らかになったことは以下の通りである。

- ① 利用者の移動目的は、「施設への訪問」と「人間関係による訪問」の2つに分類できる。
- ② 高校生は、「施設への訪問」が主体である。日帰りでのショッピング、レジャーが多い。宿泊をともなった移動では、親戚宅に宿泊している。
- ③ 学生は、「施設への訪問」が主体である。多くは宿泊をともない、宿泊先は友人宅である。進学による帰省・帰宅、就職試験や就職セミナーによる移動目的が最も多い。
- ④ 社員は、「人間関係による訪問」が「施設への訪問」を上回る。友人とのショッピング、レジャーといった余暇行動が中心となる。冠婚葬

祭による移動が多くみられる。かつて、仙台へ進学、就職していた経験があるため友人が居住している場合が多い。

- ⑤ 専業主婦は、「施設への訪問」と「人間関係による訪問」の2つの移動目的に分類できる。「施設への訪問」は主にレジャーであり、近隣の専業主婦が誘い合わせて、仙台を訪れる傾向がある。「人間関係による訪問」は、友人よりも家族が主体となっている。家族が仙台に単身赴任や進学、就職で居住しているためである。

仙台市（2000）は広域的な集客に対応したアーバンツーリズム（都市観光）の強化をあげている。仙秋号の利用者の移動目的において、都市観光は属性によって差異がみられる要素であることがわかった。しかし、人間関係による訪問は、人々の移動目的の大部分を占めており、都市間の移動を明らかにする上で、さらに検討の必要な要素であるといえる。

今後の課題として、今回触れることのできなかった新幹線、自家用車を利用した移動目的を調査することをあげたい。複数の交通手段を調査、比較することができれば、都市間の日常的な移動をさらに明らかにできるであろう。

本稿の作成にあたっては、秋田大学教育文化学部の松村公明先生から終始貴重なご指導、ご助言をいただいた。末筆ながら、ここに深謝申し上げます。

注

- 1) 本研究の課題として、高速バスを取り上げた理由は以下の通りである。
 - ・秋田－仙台高速バスは、発地が秋田市であり、着地の仙台市まで直行するため。
 - ・事前の観察により、高速バス利用者は年齢および性別が共に多様であり、本研究の主旨に適していると考えられたため。
 - ・聞き取り調査に際しての時間的余裕があるため。

通常、JR 秋田駅東口バス乗り場では、高速バスが来る20分前ほど前から利用者が並び、バスを待っている。

- ・新幹線こまちによる聞き取り調査は、駅構内および列車内での聞き取りが実質的に不可能であったため。
- 2) 2000年国勢調査によれば、秋田県からの転出人口は、第1位が宮城県（11,450人）、第2位が東京都（10,595人）であり、市区町村単位でみると、第1位は仙台市（9,339人）である。一方、秋田県への転入人口は、第1位が東京都（7,819人）、第2位が宮城県（7,077人）であり、市区町村単位でみると、第1位は、仙台市（5,367人）である。
 - 3) 2005年12月現在、新幹線こまちが1日に上・下16本ずつ、秋田－仙台間を結ぶ都市間高速バスが1日に上・下10本ずつ運行されている。
 - 4) 「施設への訪問」とは、ファッションビルを含む商業施設、温泉・コンサート会場を含む娯楽施設、進学の対象となる大学・専門学校、就職の対象となる企業など、仙台に立地している施設への訪問を指す。
 - 5) 「人間関係による訪問」とは、友人・家族・親戚への訪問、冠婚葬祭、同窓会を指す。
 - 6) 「レゴショップ」とは、「レゴ」と呼ばれるブロック玩具の直営店のこと。元来子供向けの玩具であるが、ブロックのデザインをモチーフとしたステレオデッキ、バッグや洋服などもあり、学生、社会人にも人気が高い。

文 献

- 仙台市編（2000）：「杜の都 仙台市中心市街地活性化基本計画」仙台市，80p.
- 成瀬 厚（1993）：商品としての街，代官山，人文地理，第45巻，618-633.